古今著聞集　三・四　（元禄三年版）

椙山女学園大学デジタルライブラリー

椙山女学園大学図書館

古今著聞集

三

文国共同研

林家蔵書之印

古今著聞集卷第三

政道忠臣 第三

治世ハ政万法靡然是例者以仁使臣政第八

和歌者蓋人倫之道者歟若自今以後上下和睦者也

延喜聖代ハ法理ヲ正シクシテ後代ノ亀鏡タリ管家

定忠朝臣ハ雄才ノ名ヲ世ニ雄人ノ名ヲ世ニ

傳ヘシモ[illegible]ノ[illegible]ニ寛平法皇ノ御

[illegible]ニ光孝天皇ノ御[illegible]ノ[illegible]

[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]ニ

天子ツヽシミ[illegible]ノ[illegible]ニ

57B0531

寛弘元年を延長元年天祥元年と下ゝく書いはきを所とさいさあるれそれどこの所ゝ宮乃遺所ゝ春風秋月若宴実事・章祥泉小野且歌風月且須文武不所二年乗章又大慰大宴慰之と作り村上帝不面会帝わりを所より後冠の下祝の年あけこの所ゝ南階の造小作る成べ作ゝ歌時の政乃を べ世ゝいくゝ中すを作るこれで同じ度ゆくこそかゝへ但ゝ多家ゝ松明ゝ人ゝ率分豊小草作と養ゝ

きれて帝門大ゝ所ゝ作ゝ成ゝ作ゝ所ゝ所ゝ

の月ゝいわらげりを見や松明のいゝ中ゝ中ゝ年ゝ月ゝ

八世ゝ作り率分豊小草のこけまるとゝ後所ゝ成ゝ

抱ゝ素ゝ袍世ゝ帝ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ

くゝくゝ作ゝ成ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ

分袍情献ゝ書ゝ書ゝ書ゝ書ゝ書ゝ書ゝ

ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ

ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ

ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ

ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ

ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ

かうりやうとくはのえで人となんとりはかんとうひ
やうられをれどそのうぐあはあるをて者府家にして
畏のうーとせうきをれで人うをはをれく紫紗あ
す法をべらきをり
小家天五条家は同車ゆく出仕せう殿法を所は
は車のをるとふにに一女人ぐいはのせうゆくはりをわり
をり又家院のたれよ一条大ねたたは大ねゆく同車
をくはそれをりはは又子同車はすをまれ寛元
二年賀茂臨時祭の時二条前家宮白一条前家
はゆくまのりわひ法ひ法ふ書てすをてみをぐ

は同車ゆく二条家所よねてくきてはんねわりをり
を後法成寺はは儀よはのせをひをりたは車
をひをりを後をてはかをんをせられをりたの経宮白
の場多はは車はをたたの場多はは車は後よ
で行をりをる前駆はあひをーをりをりを無を
すゆぐ世の人ゆ侍ー
後三条院は時陸方ら格を中弁ゆく侍りをるを越て
実政をを中弁ふをられをりわしを陸方法格
つをあてはられぐはは格ふをえはををゆーゆをぐをを
はをぐをををひをるをてを同院様令式格ふをぐ

と宣命にりくせさせおりくせきるを資仲にあれいう法
とこそやうさせうありめ前のもとでよたりひうるる大殘
バいくでうかくいやうさせおりそせ剃ーまいくせきるに祖
なくうせさせおりーにるハこの宣命れ田へやとそ
人やるの傅中納云に侍よかれく侍るハ人ハ屏風
れやうあるづきく屏風いうあいきうひきのへつれどうあく
なりそ殘ぎりてくうれぞたうしる匿人れあありよ
ありくなりねきびえあそこび屏風のやうにひど
あるあうなれど実うありきうありりれおりや
侍るとうや

匡房中納言は宰相中將ゝなりて伊豫ゝたりしに
ゝりを留ゝ道理をそりを申ゝ捨ゝ和歌ゝ
つゝ船乃中にて名ゝる捨ゝ人ゝ一船ゝつゝそのぼれる
ゝ乃程の和ゝ海ゝて者ゝ船乃和ゝ海ゝ入ゝつゝ
それゝ中將ゝ世ゝ和ゝ世ゝ中ゝ世ゝ海ゝ入ゝ
人ゝ中ゝ面ゝ白ゝ和ゝ歌ゝ作ゝ入ゝ
ゝ入ゝ入ゝ入

いそぎはのへありて御鍬爾王に参いりやうんとて
まゐらせられぐうりうりうり

しを国がゆしりく光方ら辯ぬをう紀くをりをる前
途ゑこまりをさせとそいをれけるをに上てをくうせ所ノ
治承記年六月二日福原よりこゝやふろりゑをる公卿十三
日神の大鳥ゑ陰重ゆ新都まて著ふゑ侍りをりハ
大なる所のをにるうらふ所ゆるひをれるをよ
ゆ房ありつゆををれとに頻よゆくしゑゑゆ河
よゆ房のいふやうゆれしてゑんやこう法りよゆ仏ゑの
うををさせまりねるゆくいぞやいひりゑれいら驚ね
又称こうをを法著よ同ゆうに入てをりゆをれ行のをそ
次月ゆ新都ふ赤ゆて御大鳥ゑ新御別当時忠ゆをに

ゆうりてをりゆ大鳥ゑ入をれゑれどもいとゆ川
なりりりを法をゆ公人の著よ還御ありと新御所造
のりゆ在をて新院のゆとるふうゆ摂政亮重傷ゆ新院よ
りひをて出仏ゆとゑくをあね玉ゆ一月ゆ著ゆしりね
産ゆ称ゆ産ゆをれをりを十月ゆ宮平ゆ京ゆ還御
ゑをれゆ物ゆ著よゆりりをり山信のりゑ又東ゆの
をれをゆの西へとゆ法ゑる治承ゆ年秋の法より
伊豆ゆ出ゆの流人前右兵衛佐頼朝謀反ゆをゑ人ゑをり
追討使ゆ新惟盛新宰相ゆ中将ゆ平家ゆ法ゆ知度
ゆをれをりをれゆ源氏の兵法ゆ敗をひをれゆ

遁世法師ふる舞道ゆゑ久しかりしかども狂ふ世の中にて
つゝみなくさりきれて十二月廿日新院の御上ゆく東国
及び諸侍おきなり中の御門左大臣藤原隆季
大納言新大納言藤原成親卿長方卿参れり
孫房朝臣編旨のむね伝をうけ給はり
云ひけるひとこゝにて法皇流罪高倉院
天一年中よりの御門徳大寺実定
月の中小十日の出清夜嵯峨に改元
法皇八条院代帝出家院宣天下
合改勢あり又入道実白被落飾
基房殿ゆゑ入道殿を流罪
他人出家遁世
あるべきにあらず
法皇去年の冬より
なくなりぬ
道の法師
法皇
四月十六日入道殿下もびせんに
公事
四条殿参り除の遁世

あらぶ神こゝろをしづめ給ふとなん
大小神祇冠位相当の事
一大小神祇冠位相当の事
一大小神祇冠位相当の事
一

わひく郎扇よ取りへくとて是をれぐ以文礼と記
きりをれそれとりやぐて相扇きさる紙妻伝にかく
うしみかきりををきとうとうしわぐ所かりをれぐ
かはかやとそ世の人いひを
宇治大納言隆国記はよかとうをる年後時の陰法
法とまいるをさはとうをされそれぐ後とうて紫宋
うけとうぐ長ひきびうて左庁かふされうをる宇治
友を義をとりて出る法をあり仁をのをれぐ行をわ
ぐりをかたるぐくきいとわられ行をり
いづしの年かう白る芋を小進士判官為系孫仲為り

とうををよ雑花をでをぐを相をうをれをちうををのぐて
撥非遠使ぐも退知をんとををかをあ相ぐ伝ひとうの咒
尚紙を記をぐをあのををのぐうをあ見相しをを孫仲
ぐか相とうて先をとうて先ぐをうを相しを大黄を中て
性の尚紙ををきをあよかりて文朝とうかよ為
とをいく作のとを一成をを方をたやいんと勅
とうをうはよのぐをていかりをうを叡感ありて女房
比丘尼紙あ為ひををうをれん
寛治八年四月二日為の陰附宮ををうを房房
右大臣関白右大臣をうを年をを右大臣

三位北の方にて侍しまひろ殿下・左府頼通生下之
聖教人右府和歌を感ず接ぎ感雅成商階のおよびて
出家とぬきて〻あり世きり関白殿中納言師房卿
をくみうり給く〻れをのれらわ〻あはひとく〻おつり出
されそり中納言中将をつくしてはまたび敦久ふ給ひ
行家とい雪雅よ〻ひをの先紀わ生ても附ふのそこて
西面ゆく〻しそ給きり沈よ中文帝方除附寄まと人く〻
あ給そり催ても絲源あ〻てて〻数年彩絲碧その弱
あ〻れあ〻びそる例醉代真く〻をて〻なくゆ給ん久歩三
年十一月廿月世の中の関白殿関白とつとあ給ひそるに

世〻藤家と言ぬよ世右大弁記めされそり左近将曹
大名久年おまび〻ひざつ〻紙〻をめ〻そり給ひ世を
ゆ〻そりめ〻そり〻法よりと〻久年まと先〻く感じ
ゆひ〻給とゆん
仁平元年正月一日院御礼ゆ〻そり八条左大臣七
十二にて世〻らまひそりを〻び給〻〻〻ひ給
〻給ひそりひる給紀よ久〻世〻給ゆ四二年ゆを
久〻〻〻ゆ給
天永元年正月一日出元服理髪場河左大臣の一歩兼
給〻給ひそる〻先〻まや寿治元年院御礼よ後久

新大和国もかくし給うきうに天平二年八月十七日宮
内卿おとれいまきを所より中臣府君人古麻呂伝申て奉
行せられる所ホ廿一日諸兵月左大臣まいりあひく法華寺
とゝさせまひうに九条大お宝大納言ありてきう
賞伝中納言のたゝ平さて多くきりを所ら侍従御
座のそやう別よりひうほうゆうされる所よりさて
左府きりの獄すホ作まくさとされはうり左府後
ホ月記をんさせまひうに所ホ中の法華寺たゞそざうをれば
俳諧すてあとされはる事をんひうあひく意ホと書て
獄すれの中につうりきう四位ありを所ゆれ

内宴ハ弘仁年中よりはじめうをはじめ元ようはく
てはこあうれぞ侍えこの四月廿百ホれてはをれるべ
きをこゝるるをるはどれをあいあるてホ二百ホをと
きをうりホ月れ事をるれわとれあそれれうは法
性るあ宴所まてはりをとをはじめくんくはく
系りあひうをるれ所左大臣ハ所ゆれて事中
おりをうを左大臣い宴法の座を必ひつきくまてあり
あるホ座ゆうあうればひでるべきはうをてを
をを所ホ左大臣をりくはくをきはをてみをれ法れ
ゞも所ホゆうはざりをうつのホ所左大臣まゞ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の為めとびのいはとに切りとられバ主人真
よへ世切りしゆーきり揚屋を城開こし付し唱ぎせれ
きり真わるすこ永暦うりおこをかれぎ如ふけこ
打こ雷ーこ
後白河院は熊野詣よ義代の宿よつせおりまー
うりを後よ出司松煙をつこてはおかをこうりをり
花山院は府中山寺ニ入道ニ成ては右大将あてはおかひ
うせのこうりをかおかはいの拍ぞんこうのこ物空主
うれだおこで右大将よをめやうれうれで拍と問させて
雲とうりてをせのひうりその拍陰月の拍竜は空

なをりて有りしをあやまりて心ばりの感歎のきりさめをうけ
遠久の法月帰へりて後掃除せんとて庭に出でしに
形よ近代世間にもてはやされぬるいそれなるさ
るもこれ程よ河内の国さいさいさいさ三条の長人
たの用兵の時さつかさりてめしあひしうをを成勝者
のしたてこれまバやうぞ伝るんとやおられんと私人これ
用一物代金にもこれなり沢よ用兵りいどう成ぞうして免を
こうもく懐中に抱ひこれば人々皆まうる用していよせう
さくりあ下さちのぞ色まへ伝こ形く用兵ばさうまく
る成切感ぞ色さぞれ人ぞまのぶるるぞ色

さてさ後はいさゝかあり申さそう
建久の比中山左近入道殿大納言左大将にして縣左衛門
三ヶ郷を法花堂へ寄進の文を書てこれをたゞしくさ
ものひろ様人々めて寄ごりのくしかりく給ふ事くおを
こうきそうやはおハ申さ給書ふなんわを
弘元弐年十二月九日京宮陰国にこれを給ふ武大納
言藤原二の大臣殿ふとうれこう家と家の宝文
道家中納言左大将ゆく一巻をとり出申さて三位の人丸を
こゞ人ふれこう祝言あゞく申へをしあけさせ給こうを
人くやめを給ふりなりをるその時出羽十六

ゆゆしきをあるこうやみあ　これ出羽ゆくなりれ国を
云ふ出羽ものて時の人々を給こうあん後を祝儀入乃殿
下ふ内弁の儀法をあるこうせおりまえとて歌に為ふ
御事ありくこれこうまいされこう入乃殿下墨染の
法衣をこの為ふ勤者でしくさくこのの下重尾とこ為
りこせ給くふ御撫ふあのくゆゆさきて祝こせものひこう
きを為国を人を打ようしめでこうを為おこ為おさ為上
人三人上申頭ふ八宝補打下入でひをる
後を祝儀のそうに大内ふ出羽ありて白る装束乃
琴礼をこうを儀八大臣の大将とそ内弁をはこめこせ

おりて海へ出ける官人酒つよく酒に伝へ出ける
長谷へくだりて伝へ出ける後久しく
を伝へ出ける遠酒に伝へ出ける
こと伝へ出ける海へ出ける酒に伝へ出ける
酒に伝へ出ける酒に伝へ出ける
酒に伝へ出ける酒に伝へ出ける
酒に伝

を感じ真の事なりきと勅負年と奏し感じ給ひ
けり碁道一艘をうち嵐人碁時大艘と打きり給ひ
ける碁の
ゆえ おとらじとそらせ給ひ弘誓殿の雲白地にて勝給ひ
き感光殿等ひたすら感ぜ給ひ
おりしてあるべきくらいに成ぬ
後のるのりきりはよろこびの法はなりとして
出家ひきつぎべくして剃髪をして遊蘇と
て拙者光親と出つひとて問意へ
とにぐくなりきるべくなん

古今著聞集巻之三終

古今著聞集巻第四

文学

依犠弓氏は天下に正らてとゞ名く書類と作く
繩とひきびーはよくへのひーとり文籍をれり孔子は
仁義礼智信をいろあーとひ道さとりく書曰五経
不成聖人ふ学不成道又云仏風孝信莫高於文敷義
釈氏莫善於学文学は男子為益くのおとし為神
天皇十八年に百済国より博士孝典をおくらーく
まりとして後孝史多ふまのべてうえとり拝結へ
志のゆくかくよわる成志とふわとうとなると

もとしいりの天長天皇第三皇子大澤皇子始くしゆ
とつかさ給ふそれかうあのうち長風拔月の意新に清此
潤れん成をもて一個花名蕊の繊細也素帛酒はしめと裁す
はりの

天暦六年十月十八日後江相公の美よ白雪ちらす
ありきりおろくわひまてそのうち成れて白衣
をもまひりの面の色わくろよそあり　をは者を絶
ちくるりの江人わひちくうひりきれおろ平天う
まり落つる叶の面まきそれで赤ちりとそ岩のひ
りをなやつさ年まて赤わるとの落ひうるにいまく

ほ落よ及ちて美さあはをれど月病と年拔ちうと
天暦四年朔綱文時よ作とて文集中と結をてび
て年ぬつさう勅定ちをれど

送蕭處士遊黔南

能文好飲老蕭郎　身似浮雲鬢似霜
生計拙来詩是業　家園忘却酒為鄉
江從巴峽初成字　猿過巫陽始斷腸
不醉黔中爭得去　摩圍山月正蒼々

あの江新はをとくびあてまりつうあり
百をびれとあハ月れど白新をあるみて

ありぐさのやあ人田のいなびかり　奥の細道

あ[illegible]低文庫紙相規ゞ書をおよまるゝ晋之丞仙後
人之初北候嶽く月羊太郎之早世行客墜涙拭峴山
く雲ちの白ことにとゞれうをおを落る月れわく
アをろよあふるあく出衣の人袖ゞうハ立秋感
れわりわくこれおひうおよや

蒼波遠望千里白雲山深百一変　皆ハ橋生轉
ゞ秀白あく伯ゞ成育拭ゝ人唐の附ゝ伯ゞ
称一をり但雲千里と伯を震千里とわゝ半免
る一あゝとハ出一ゝとあゝうをゞ成唐人ゝ

て伯ゞ白く伯ゞをゝ伯ゞ雲千里百一あゝをわゝハ
ようあまゝとゞいをおうのゝ人れいにう
ゝ成ゞをれうにうのゝ人れいにう
俳途程遠地思於唐山之夕雲後會期遠霑纓於馮
肝之暁涙ゝ後江相公ゲ書ゝ伯ゝ流れ人感涙を
ゝゞ一をおのゝふ牛ゝ人ゝあひくれおゝこゝの佐ふ
のゞれをゝ伯ゝうゝゝゞゝは答ゝれゞ月牛ゝハ哭
ゝをゝゝゝ伯ゝよハわゝゞゝをゝゝゝゞめをる
ゝ伯ゝ白ゝ成ゝひゝゞゝひ伯ゝをおふゝの成れ表ゝ

天文十二月孫右衛門裏をとつをとをまいをはあんじ
をこしかり
時後山清とゝ手成い言つゝうはいををるに海雪露葉日
を見欲得為果宝ものやをはゝうまゝ云ものをもれをゝ遠
ゝもゝみのをゝ思ゝ思ゝ思ゝ思ゝ思ゝ思ゝ思ゝ思ゝ思ゝ
象ゝ乃成ゝく後をなゝゝをゝゝゝる人成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ
をゝはゝ思ゝ文佛ゝをゝに喜ゝ物ゝ物ゝをゝくゝはゝ
をゝ成ゝ上ゝをゝはゝ物ゝをゝ
後後天ゝをゝ后ゝ云ゝゝくゝ男ゝをゝる時ゝくゝをゝゝ
ひゝく文ゝ慶ゝ二ゝ年ゝ九ゝ月ゝ十ゝ二ゝ日ゝ歌ゝ家ゝ荘ゝ厳ゝ法ゝ寺ゝ為ゝ

弘法大師の筆の跡ハ月日の光よりも光りて世
とゝくゝ傳はる月映素麗法七十枕国名流紙の
白玉花ゝ色ハ世ハ人ハ見ぬ物なれとも
ねるゝ色ハ人ハ見ぬ物なれとも
ふゝ不見花中偏愛菊花開後更無花
頼ゞ秀句漢君子琴弦清一名名酒琴
ゝなるものゝ名ゝ
わるにゝてその感ゝ
て盡とわるべしとゝくゝせよ
いづれの年よ天下ハ疫病とやうゝを

若し文付こゝろの思のまゝにそゝろぎ出る是作とも
これ詠して作りもなす成わまは作といつて出くく
ハかりにまかせ出ぬれば滝山雲脚寒ゆる年こゝ遠
こゝはなり高人の歩成バいでゝ出ぐ流れて出ぐ
こゝろ出ぬ是作いふきりたくかれ死もかれ
ようくゝ出ぬしらやまふかして一道ふかき所人いむと
も今をうれしかりぎやゆく作り大内紀吾源保胤
と八家文よりふんじて下四代付す時まれ文筆
なりびとるれ釈王令云遠衡如何答曰敢死く士敢
殺如東策薄弼似巫濱俳く海其作表紀如故

尚者又令云欲名如何答曰瑞雪之朝陽臺之上似弾箏
柱又令曰以言如何答曰如遊如翠松陰下吟蔡陵上又
令曰足下如何答曰曲上逢郢客毛車時く似巫山声と
中を分て無わるゝ自漢武魏文所云作と
こゝて文選中作れ白雪天の花を八家彼先生入る海
けるとやれバ和漢風情付よるゝ引く強ます
中ふ作ども皮係胤が河方今序れ出ぐ八さ和くなる
所いづれもまるまでこゝて作れ一隅を用もて若
邪作表紀こゝんるハ口をーかつるこゝ作り作る同
半なるつさみや

白河院御時の歴史の医師俊[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の

同序云社稷之長政化雖高朝闕万機未必充姚崇
風月之主名雖富夜臺掩未必類祖宗彼富貴
暮雨花尽巫女之嬋々秋風人下伍子之廟古今相隔
幽冥推同匡房五稔之秩已満待春新蟻乎江湖
覲之期難知何日復列廟門之籍と如是之事
いとく蒼苔雲雨紅吾否其奈於海於帝京さん
きてつ此序後篇一を所付の中に句後に為のるふ人
の涙をるこ多の中に多ハうるびなく神感れあり
天神の御ものるふ人くゆを今年新春秋
満のこにわるきり明主海浜さん主るる神を者あり

わ[illegible]く光彩くくく唱ひるるや同じ年新春出て花
浦よりもひくくて世の哀ふ多りく序後くれる原美
中よ人多く苦を原ハ此序中ふあやまりをなる後ど
せるとくくこめぬを後伴の序後沉思るる抑
中に景色暮花前に依欲罷と云句あるる抑中ハ
秋の中に是の付よりべと美絶て別に成れよるり同序
よ潯江陰海雲之又雪や晴川巴字之ゐ洛妃漢蓮而
悲美也　自動魏牟之塵光の廟甚春竹深一掬之涙
徐君墓古秋懸三尺之霜右軍既碎蘭亭之席楷叟
尤嘆頻顧批浦之望欲論かゆ凡秀句文後半出れ

[illegible]

尚書舎人唐の舎昌五年三月廿日白氏乙履道坊の
てらで先くなりたまひぬ承和の貞観十九年三
月十八日大納言年名の小野山庄のくらで先くおこれ
りをり又承和二〇三月十二日大納言出雲国の
庄にて[illegible]元年三月廿二日大納言

宗忠の白河山庄のくらで病ひをり七度年三月廿
年八十三 前左大将の伝説基経 七十六 前の日向守中原
廣俊 七十 亭主 七十 或ア大納言 六十九 右大弁
実光 卒二 或ア大納言 基房 卒二 中ノ基俊 卒二
[illegible]
[illegible]
[illegible]

命じて詩まで献戯しを感今そのうれひなる
給えばあるにそなきされ
永久二年七月廿日或の五位侍従さて
はあへあるうをなよ朝臣をしをる女遊
化遊元抑をく章八大江を遇用文あの白し次古来ばくう
ドをりはりの感をびといふるの形次よ義法あるをう
をとに沸笛とふるせのふ文閑て五位朝臣をあはるふ
義人朝臣坊婦りてをりをり更伝
勅をの作の学生をあれおりて酒嘉をるに杯のく
儀しを後年髪殿次をいびを文れ法分を生をん

着ば」を宮めをり給る式儀れををそつをそり侍
たるをりくはりをりてくぞとのはをれく法れをこのを法文題
三十寒四寒の巡朝晴論のあの八を為るを
あるを七といはるをるに儀宮を清に法寒ん式をくこの形
をり式法れに義れ人をる学人ふあるをるを学の問秘
次人よりけく中をれた つあるよるはりをりヤ文人射
笈暦 抑写本 押子老自惟湯之一老取明院見質買酷
自商山之四皓と書をるあめくはるを形句をて
人はよおるりのあり
康治二年甲子ふわるりをり側ようをを弟命

れさぶらへんべうをもよ宇治の大府前内大臣ふしあへ
しをぶぐ周易法の事ばしてい宝よ海いん事
あーう海びと学ぶくうあをまあ山びこにはと学ぶ
学ぶくうあうあるぶ山事と学ぶ事作ぶ事ういひ
作ぶ事きう又あ事山法ぶ事ぶーうもいつう作ぶ
ぶ作ーぶあはぶ事ぶ事ぶあんぶーー倫法ふはふ事ぶ
学ぶ作ぶーーぶんぶーうーうーうーも倫法ぶ作ぶ
きぶとして二年十二月七日安倍泰親をめ多河原
ぶく泰山府君をまつるせてこれうー家道ぶもう
りせのひきうー教社ぶそのんーぶのーーぶきーー

作ぶ事ーーうをぶものうーーぶくーいぶ作ぶあぶ
せぶのひうう文ぶとぶんぶ冥加と思ぶ作ぶくぶせ
ぶせまいぶうぶ作ぶーうぶ事ーー
仁平れ法家朔商客劉文冲東坡先生物掌号二伯
五代紀十帖唐書九帖名籍をぶく宇治九府ふ
ぶう道事ーハ文章博士学明経ぶ学ーて前学問
右廉宗信ぶ法ぶうーーぶを尾張ぶう部ぶう事を
ぶく学ぶうぶ作ぶ全ぶ五ぶ法ぶありせをう又要書
周孫をうーーうーをう万寿三年よ周長史ーいひ
をぶりのぶ石籍と宇治生よ事ーーぶうーぶうわうぶ

[illegible]

仁和三年六月廿一日院宣ふりて宮内卿藤原三善
朝臣等の試とおこなはれけり菅原敦茂菅原登
宣同在清菅原敦經同光孝菅原善主義方式中務の
ふとへ〜きふをりの事を諸家の菅原道真の
ト部伊吉博士喫状めしく左傳禮記毛詩を
ひく說とを〜いだされけり孫四小をりけく乃兼隆
朝臣とめしてふをこそ所れけり礼記の義をいふす
とをりをりの家司盤業状をつて試飛小をあり
出をとの侍くだをとをつかうまつりを後伊豆のをり

後小後をり通憲入道あをもおほをわ〜をを
をそつあ小光孝菅宣で侍りをあを
仁和元年四月廿八日義人ありて亜槽の式わ〜をり
主憲師亜師尚行の〜廉風を侍ざて次へをり乃年
能家朝臣義人の年雅朝義人勅解由次官釈菅
をつををりをを菅原道真毛詩尚書を侍ざ
式中より十の夏頃をを〜いづてをりをりを式侍を
をり師亜八三年小を〜主憲師尚八二年小を〜
主をりをり次月釈菅原師を小く助教師光師尚朝臣
亜槽廉季を式義人ありめしく評定をれをり師亜

倩案ふとどれさうにようて百つのふかされはそう
お納えへ乃仕あげ歩まして人くあ間まうてあそび三浦よ
歌舞伎屋敷ゑ乃部わく者度の話度作りを仕よ皆人
ゑ作いさしうをよ敷周作下第一出さね半さ
わく行へそれば海産屋さ先てぎり作ようにとぐ
作それば有安ず産のまへよあそうふへ乃胴衣をぐさ
よ一度をあそれて才一重二法蓮とふ乃度衣一ようう
ようぜん身およ出部よりさてうをうあや敷周作
に中て作りいぐしうをう能んれ時安三曲乃浦嫁君
家ず才に声とにうようをう対その屋おく人く感歌

しうは胴衣のあういしお逆あれすや
治郎武年六月海日間書あて家くふ作ぎそう部
結浦多俵作屋浦野成能にこ下条くまこうをう製
藤白ふ豊忌一字掛金能丁懸白寒作くつうを世絡
うは作ふく方間に永作能に屋条後作にくもふ浦結
俵ふあて作ひけ子ず感浦をのぐひく安人条墓の東浦と
ありて二陣九大年一新潟しをう屋六文八れ屋番代番
とぐううけ屋作ふあてにあくしさ面白ふぐ
こう会浦の風月に作ふいあのこ出作にもあをう治郎武
年六月七日近久のうさ治を作く中安東作作

又ある人の夢に、左大臣殿、内大臣、中納言、資朝、権中納言、実世、右宰相中将、実盛、武蔵守、
左兵衛督、後醍醐中将雅忠、朝臣通親、朝臣、右中将、親宗、
朝臣、義人、左の兵衛督、為光、義人、油解由次官、基親、義人、
作物所、実卿、めされ、うち、武蔵守の中にけれ
て、禁裏、催、勝、と、るーく、ちり、初、盃、てぬれば
出、を、ぬ、ぬ、左、左、右、右、象、祝、御、ば、出、ま、へ、よ
と、て、御、ーと、あ、ば、り、を、り、唱、ま、と、ぞ、ーの、ひ、ろ、清、の
き、れ、り、を、ま、の、や、中、文、左、文、を、成、ま、く、笛、ま、と、ま、ま、ま、を
れ、り、ま、と、ば、ま、ま、り、ま、く、ま、ま、れ、ま、ま、ま、ま、て、義、両

ま、て、つ、う、ま、つ、く、ま、け、の、中、御、門、井、殿、云、宗、家、物、の、成
ま、成、左、角、宰、相、家、通、筆、成、ま、く、殿、の、中、の、定、雅、朝、臣、集
集、と、ま、く、お、の、雅、賢、朝、臣、和、琴、と、御、ーと、ろ、臣、安、倍
ま、ま、り、氏、雅、席、図、ま、取、ま、律、伝、殿、通、方、楽、乗、文、ま、乗、ま、
出、を、て、く、の、成、殿、ま、く、ま、光、成、ま、ー、く、ま、ま、ま、ま、ま、ま、の
か、ら、左、殿、左、殿、出、製、と、ま、ま、て、文、ま、ま、の、と、ま、ひ、ー、く、れ
ま、れ、ど、氏、殿、左、殿、て、ま、ま、り、ま、ま、

夢、の、通、月、下、の、琵、琶、の、ま、ま、ま、の、頂、声
寄、席、懇、追、延、久、編、図、花、形、異、昔、風、情

登、白、下、七、ま、中、文、左、文、の、ま、ま、ま、ひ、く、ま、ま、れ、八、ま、文

ぶてうさきぐ系ーさかり人と感じまとめとで大臣
山鹿をうりて信中より八まひうり延久より出羽門官府
ハ人もこれをいざりをまよいと無ありらそのこうを
ぶ度ホクりおひく後数文孫じ給ひうりぶたた
ろよう人をぶ山半ぞあるられくめでうそ行ろう
右大将兵也因孫ーをうりと後今月徳元年で
8孫ーあきりの西行小山鹿より作りあるをきろ
人和孫と給ろる半式部大輔ト出そうをれとも
紀納言れ人をあ年月さうかるびうそ大夫初位
ぶ行てかまひられうをうゆ安ぞ行ろ孫と後

の文人員お変えうひめられ孫ト右大兵也方をれ
きろ半人くあやーこあうりひろかろうふうおぶうあさ
ろく右大兵也ろ我恒て病く称て春儀大兵を鹿
と稱ドきり実ろ人屋まうりをぶあや天氣ふ使ろう
半ろうぞ
文治二年九月七月曉秀文也官ろ長者ト信右中兵
定長卿ト中納言ろあく信時作文とおこうあて
ぎろ為也このう城の年ト告をれでおぎろ人
くぶまうあて同十月六日作文城ぶびおこあひろう部
八廊通第月也源中納言通親ぐこ上系れろ序ハ

大内記にて寺で書を所持せしのち新中納言の為光に
或り大納言能親に大学の五義第十の章摩尼殿朝
臣に朗詠しをりしに仲余抵抗かりまたいとやを
もかくあのはかせおりまたすかくなり
或人書百れびとに起後花陽洞とこそまれることに
いひそり或月くくりあひそりをよかの人素のとく
又は白波いひそりを成成宗後法師そりをあんに古詩
松ふ立ちといひそりを成満座無よ入と腸をたりをるを
そあの事後八連句れよりをり
春潮春雪嘶　古関古高猴

琵琶稽牧馬　鞦韆習泉狼
あまりそ事少後ゞ秀句ゞ作り
邑上帝ゝれ之を抜ひく後枇杷大納言延之に和ゝ汎上
意ゝ詩ひまて作りゝみれいろと生ねぎ抜ひをり
ある夜の美ふ古製とゝ和ひゝ
月猫日本雑相別酒　清涼菊亡滅
兆率寂寞夜閑流　如今拉彼張卿名
大納言美さのて花ゝろ之を是ふ小ゝ和てまりる
再拝賀郎一寝程息言芳慶奉汗情
美中如覚美中夏雑盡一　生豊一宗驚

後三条院東宮にましまして御ものいみ時に大江匡房
侍従にまいりひさきの御よ綺別殿にて詩
てはべりかりをのこらに

列民服作耳棠詠　莫忘多年風月遊

はんべりを結云孔子曰耳棠莫伐部伯之所茂とぞ
あるべき

中納言歌基は後一条院と申しおはしまし
つかうまつりそらみのりをきりはべれ
ありをれば先帝は二君よはひをいのく天台慢
厳淡のおりくかりらあるべてぎりはべりこれまい

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古墓何世人　不知姓与名
化為路邊土　年々春草生

菅原相昌泰二年九月十日寛平法皇の御大
ねりて内ゆりの世を捨入給ふ
君富春秋已衰老　恩愛涯岸報獨遅
世俗世捨をれば西のうんれわのうふ法衣とねごて

げをさせるひゝ沈同宇年四月ゆゑ後のたぐの参
ゆ石実ゆうて俗ゆゑ宰相殿より所れるひゝうば
いうぐうの世をうゝくゆいさゝゆりをゆうをめた
ゆゑ所の乳ハうすをうを奥ゆの言をゆのびゑぐや
ゆ同えさせゆひえゝやよのゆうゑてうのゆ為沈ゆ
ゆきゝうれうゆり沈次のうーの同月ゆくぐゆいゆ
さをしうゆひうう

去年今歩伯清涙　秋思詩篇独断腸
恩賜御衣今在此　捧持毎日涙霑裳

後江相公の澄明ゆおうれくのう後世沈うゆうれ

を感歩文ゆ

悲之亦悲莫悲於老　後子
恨而更恨莫恨於少　先親

をうけゑゝそゆ後お遠の恨ぐゆさそそハとさうが
うくわうれゆよゆぐゆれ

撫西通ゆ為れ之川めうを沈恨ゆく美西ハひうをる
院芸具乎歩亜家の俗文序者うををゆよ沈恨う
ゝやゆりひうん

黎亞顔駟ゑ三代而獨沉恨同泊響歌

又嗟而欲去とぐけまを感涙為憑を度ゆ俗を感う

ぜんとく行幸よ拾遺の号紙会ゝ為る一歌とうち
いづこうを為こゝひなくめでゝ為りをうゝ白りゝ
ゝ為歌名ゆゝて仏供よさゝゝひろう紙白紙をさゝ
りれ人の頭孫よせゝれゝうを為いゝゝりあゝれゆ
のゝゝゝかりをん

白紙和字会の付撰会山桜賦を為序なり

会拾遺之号一夜山月世界
先旬曲之会三鄙河花歌羅

まれハ三月十五歌のゝゝ九月十三歌よ孫ゝゝれゝる
いゝゝゝゝゝ仏会仏の義ゝゝりにゝゝれゝる

古人の所作作而可信矣

天暦の時橘直幹が家の大鋪と申すを始め文章を以て能く世に出でたる人々多く世に流布せり御門数覧あり給へ

依人而異事雖似偏頗代矣而按官職

慧運命にて迷信の河を渡りて出家の人悪ろ

アかりし人を流恐れ出家の事焼亡して俄に中院へ

御幸せさせ給ふ代代に仕へ奉りし侍ふ時尚雲客給

殿下を人参らせて直幹が文八篇あり

出仕の人々の時の人いづれも半ばぞ

古今著聞集巻之四終